

第1回タンチョウと共存できる流域づくり協議会 議事要旨

〔日 時〕：令和6年12月23日（月） 9：00～9：45

〔場 所〕：札幌開発建設部 4階 1号会議室

〔出席者〕：委員12名（Web出席者1名含む）

（1）設立趣旨（案）、規約（案）について

○事務局より、資料1、資料2の説明

- ・設立趣旨（案）および規約（案）が承認され、令和6年12月23日付けで協議会が設立された。

○会長の選出

- ・規約第5条に基づき、北海道大学 中村太士名誉教授が会長に選出された。

○中村会長より挨拶

- ・舞鶴遊水地の取組だけではなく、他の遊水地等を含め議論できる仕組みが、本日から構築された。
- ・今後数年の内に気候変動を踏まえた石狩川水系における河川整備基本方針の見直しが行われ、その後、千歳川など各支川で河川整備計画の見直しが始まると思われる。今からタンチョウにも良い環境づくりができるよう、皆さんと協議等を進めていきたい。河川整備計画の見直し時に、タンチョウを1つの指標として定量的な環境目標を設定する際には、具体的に議論を進められると思う。

○協議会委員（自治体）より協議会への期待等

- ・今年は舞鶴遊水地で5年連続の繁殖が確認され、タンチョウをモチーフとした商品の販売や観光ツアーで地域を盛り上げると同時に、これまでの取組が映画になり、長沼町を道内外の方に知ってもらう機会に恵まれたが、一方でタンチョウとの共存については課題が残っている。協議会では広域連携によって取組を発展させ、地域課題の解決につながることを期待している。
- ・昨年の3月に開業したボールパークFビレッジには、道内外から多くの人が訪れており、市内の観光客数も大幅に増加している。この賑わいをFビレッジ周辺だけでなく市全体に広げることが重要だと考えており、その中で東の里遊水地は、市街地近郊の広大な土地であり、アクセスにも優れているため、市民の憩いの場としてスポーツやイベント等の利用を考えている。このような利活用とタンチョウとの共存について、協議会の意見を伺いながら取組を進めたい。

（2）タンチョウと共存できる流域づくり協議会について

○事務局より、資料3の説明

- ・委員からの意見無し

○協議会委員（学識者、行政機関）より協議会への期待等

- ・この度、協議会の名称の中に流域という言葉が掲げられたというのは非常に意味のあること。千歳川流域内の6つの遊水地でタンチョウの飛来が確認されており、千歳川流域においてタンチョウと共存していくまちづくりが進められることを期待している。
- ・ネイチャーポジティブの観点からも、タンチョウが新しく生息地として選んだのではなく、歴史的に生息していた地に戻ってきたという意味では、石狩川流域は非常に重要な地

域である。石狩川流域とタンチョウとのつながりについて、歴史や文化もベースに考えていきたい。

- ・タンチョウの現状については、今年だけでも千歳川の遊水地以外にも石狩川流域では6～7か所に出現しており、いずれも石狩川に近い場所である。こういった現状の中でタンチョウを指標とした協議会は非常に意味があると思っている。
- ・タンチョウやオジロワシ、シマフクロウなどの国内希少種の保護増殖事業に取り組んでいるが、希少種の生息環境として河川環境はとても重要だと考えている。石狩川流域におけるこの取組は、道内のネイチャーポジティブの推進にとっても重要であると考えており、今後も関係機関等と連携して取組を進めたい。
- ・タンチョウを中心とした生息環境の保全等によりネイチャーポジティブや、生物多様性の保全につながることから、関係機関が一丸となって取組み、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいきたい。
- ・空知総合振興局、石狩振興局など広い範囲で連携し、自然環境を豊かにすることで、それぞれの地域が持続可能な地域となるよう、この取組が広がっていくことを期待したい。
- ・地域の方々と共に取組を進め、流域全体に拡大していかないと生態系ネットワークの推進は難しいと考えている。この協議会をきっかけに、取組を活性化させたい。